

米子市公会堂の存続と早期改修を求める市民会議 報告集会

2011年2月6日 於 米子市公会堂集会室

代表挨拶 【小谷】

- ・12月議会で「改修存続」となり、私たちが願っていた形になりつつある。
- ・市民会議の運動は、公会堂がリニューアルオープンするまで責任を持ってやらないといけないと思っています。よろしくお願ひします。

1. これまでの活動と結果について報告

(1) 市・市議会の報告

- ・前回の市民会議は9月28日
- ・そのときには市長・市議会もほとんど廃止ありきという報告だった。
- ・追加署名を合わせて49、469名の署名が集まり、それを市議会に提出
- ・市長が10月19日の定例記者会見で「原点に返って検討する」と表明
- ・米子市が11月5日を締め切りに無作為の3千名アンケートを実施
- ・市の耐震本部が11月19日の市議会全員協議会で報告書を説明。
- ・存続・廃止の結論は出さず、アンケート結果と存続・廃止の両面の影響をまとめた報告書。
- ・市長が11月25日の全員協議会で「存続したい」との意向を表明。
- ・総額15億2700万円でリニューアルできるという提案。
- ・12月議会では、市長の態度を非難する質問と、評価する質問とがちょうど二分した。
- ・その12月議会で陳情署名（7月議会と9月議会で継続された）の採決
 - ・12月議会の経済教育委員会では継続審議とされた。
 - ・12月24日の本会議で「継続審議」に反対15、賛成13で継続審議が否決
 - ・同日の経済教育委員会に差し戻し。3名の委員が退席し委員会では「採択」という結論。
 - ・同日の本会議で「採択」15名、議場退席13名。結論として全会一致で「採択」
 - ・結果的には、大変難産の上で、公会堂の存続が決定した。

(2) ホームページの開設

- ・9月に当市民会議のホームページを開設した。
- ・全国への情報発信および若い世代への情報発信に役立っている。
- ・集会では報告しきれない内容もまとめられている。
- ・「米子市公会堂 市民会議」で検索したら見られます。

(3) 私のイチ押し公会堂写真展

- ・10月13～14日にとりアート（鳥取県総合文化祭）にて写真展を実施
- ・施設や外観、過去の演奏会など、写真約40点を展示
- ・記名した来場者が約150名、おそらく実質200名以上が来場

(4) のこさいや公会堂アピール集会

- ・11月7日に公会堂前広場にてアピール集会を実施
- ・500名が参加した。
- ・市議のスピーチ、利用団体や建築家のスピーチの後、アピール宣言
- ・カンパとして81、493円が集まる。会の活動資金としている。

- ・集会後、有志参加者で市役所までデモ行進

(5) 米子市公会堂シンポジウム

- ・12月23日にコンベンション国際会議場にて日本建築協会中国支部主催のシンポジウム
- ・参加者300名
- ・一部の市議会議員や米子市職員も来場
- ・会議録をまとめる作業中。まとめたら市民会議のメンバーにも届けたい。

2. 事務局報告

- ・署名は最終的に49, 469筆
- ・2011年1月24日、チャーチル会より寄付金を預かった。
- 米子市公会堂の改修費用にあてる趣旨でのチャリティ金 451, 038円

3. 公会堂の改修の今後の日程

当市民会議が把握している市の日程は以下の通り：

- ・近日中に、市の文化課がリニューアル後の利用促進を図る会を立ち上げる
- ・基本設計に関わる市民懇談会が立ち上げられる見込み（図書館美術館改修と同じ方法）
- ・3月議会では基本設計の予算が提案される
(万一予算が通らないと市当局の予定がずれる)
- ・業者選定
- ・24年の中ごろに着工
- ・26年3月に供用開始
(26年3月が期限の補助金もある)

4. 市民会議の今後の方針について

(1) 二つの会の一本化（充実を求める会、市民会議）

- ・充実を求める会は2006年に利用者団体を中心に発足した。
- ・市民会議は、より市民の賛同を得られる形を目指して、昨年の6月3日に発足した。
- ・二つの会があることで、混乱も招いている。
- ・陳情は充実を求める会の名義なので、これまで、充実を求める会を存続する必要があった。
- ・陳情が採択されたので、充実を求める会は本年5月の総会で発展解消し市民会議に統合したい。
- ・市民会議は、今後、代表・事務局・規約・会費などを整備し、堅実な組織としたい。

(2) 新生公会堂像をまとめる

- ・現段階では、新生公会堂の案は市も持っていないと思われる。
- ・12月市議会では、機能維持か機能充実か、いろいろな考えがあった。
- ・幹事会の中では、市民会議として米子市に向けて提案することが必要と考えている。
- ・今後50年使える改修、今以上に利用される、中心市街地の賑わいに寄与する形をまとめたい。

(3) 市民の輪を広げる活動

- ・アンケートでは「存続させる」が「廃止すべき」を上回ったものの、38%の反対がある。
- ・特に、20～40代の今後納税される世代の人に反対が多い。
- ・市民会議として、公会堂のことをより理解していただく努力が必要と考えている。

(4) 募金活動

- ・以前から「募金はまだなのか」という声もある。
- ・ただし、現在の市民会議の体制で受け皿になりえるか、議論が必要である。
- ・改修日程は26年3月に供用開始なので、これから3年間の期間がある。
- ・きっちりと議論して受け皿の体制を作り、瞬発力のある募金をすべきと思われる。
- ・組織を作ることを始めたい

5. 質疑・意見交換

■市が、利用促進の会などを主催されるそうだが、市民の要望を早く伝えることが大切である。
そのためには、市当局が市民に説明する説明会を、市民会議が主催して欲しい

■村野藤吾さんの文化的価値については勉強会も開いてきた。一方で、まちづくりにとって公会堂の存在がどれだけ必要か、という検討が足りないと思う。これが募金活動の正当性にも影響してくるのではないか。

■今後、どんなふうにまちづくりの中心になるか、文化財になるかどうかなど、新生公会堂の案が必要。市の動きは現在は遅いが、3月以降はバタバタと進む可能性もあるので、急ぐ必要がある。

■駐車場の問題を重視してほしい。たとえば芝生をすべて駐車場にするなど、米子市の案には含まれているのか？これが利用率に関係してくるのではないか。

■公会堂に「反対」意見の多くは駐車場が無い、自分たちが行ける催しが無い、たとえばライブが無いだろう。

■文化ホールやコンベンションは駐車場無料である。松江のプラバホールは市の土地でも一部有料（200円）だから、すべてが無料である必然性もないが、議論は必要だろう。

■駐車場については議会でも質問があった。市の回答は、すべてを駐車場にしても200台であって影響が小さいので、環境を残したい、という答弁だった。

■市が算出している改修費の内容は？

→今回の改修はホールの耐震補強、現在の機能を維持する、という改修である。

15億の内容は、耐震診断（'10年3月）の報告書で示された内容を元にしており、

- ・仮設・解体工事 6千万円
- ・鉄骨工事 5千5百万円
- ・壁増設・柱補強 4千5百万円
- ・繊維シート補強（概説タイル補強）8百万円
- ・屋根復旧 2千5百万円
- ・外壁復旧 5千万円
- ・内装家具復旧 1億4千2百万円

・内外装改修 3億円
・設備改修（空調更新）など 5億5千万円
計 12億5千万円。この後、何点かの積み上げがあって15億と試算されている。
積み上げの一例は避難所指定のための改修で、それを行うと国庫補助の対象となる。

■募金活動は改修費と関係するのか

→改修に関わる費用とは思っている。市民会議だけは荷が重い。経済界等とも同期がとれるように十分に練っていき、体制を検討したい。まちづくりのためには、付属館などプラスアルファ部分への投資も考えられる。それも含めて、よく考えたい。

■公会堂の将来像の一案。ドイツにいる娘が、公会堂のような市の庁舎で結婚式を挙げた。市の職員の立会いの下、若い人がお金をかけずにセレモニーでき、順番待ちで予約が難しいほど人気がある。

■公会堂は村野先生の設計であるが、仮にこの地方の人が設計するならば、村野先生が望まれるのか？村野先生と同等、それ以上の人を望まれるのではないか？しかるべき人に設計してほしい。

■町と建物を結ぶ一番大切な「広場」が弱くなっている。広場を駐車場にするより、町と人と建物を結びつける「車よりも歩きたい」デザインが大切。駐車場化を試算してみたが120～150台にすぎなかった。

■「反対」の人には村野先生のことや公会堂の役割を知らない人が多いだろう。米子市の委員会には、それを説得できる委員の人を選んでほしい。用途としてクラシックが多いので、音響のことなど理解のある方が良い。

■この会の名前を変えるのか？

→今までの活動の実績もあるので、そのままでも良いかとも思っている。組織化にあたって改名意見が多いようなら検討する。

■ヨーロッパでは百年以上前の建物がそのまま残っている。ところが、中に入ると全く違つたりする。外観は残して欲しいが、一方で、利用率を高めるためには、中身はいろいろ意見を聞いて使いやすいものにするのが良いのではないか。